

## 関修委研究委員会報告

平成20年度

「修学旅行の実施状況並びに修学旅行と教科等との

関わり方について」のアンケート調査集計結果の分析と考察

<平成20年度研究委員会>

研究委員長	仁平 良治 (日上市立中里中学校長)
研究委員	宗像 茂 (宇都宮市立陽東中学校長)
〃	島津 浩 (榛東村立榛東中学校長)
〃	石井 英穂 (朝霞市立朝霞第三中学校長)
〃	藤崎 章一 (木更津市立岩根西中学校長)
運営委員	黒澤 雅博 (水戸市立緑岡中学校長)
〃	加藤 茂 (佐野市立葛生中学校長)
〃	中澤 和則 (長野原町立西中学校長)
〃	富田 政博 (行田市立長野中学校長)
〃	藍野 和郎 (いすみ市立大原中学校長)
事務局	鈴木 和夫 (財団法人全国修学旅行研究協会)
〃	吉野 憲二 (〃 〃)

平成20年11月20日(木)

関東地区公立中学校修学旅行委員会  
(事務局 財団法人全国修学旅行研究協会)

## 調査研究のねらい

修学旅行は特別活動の学校行事〔旅行・集団宿泊的行事〕に位置づけられる。各学校には特別活動の目標を達成するため、修学旅行のねらいや修学旅行で育てたい資質や能力を明確にし、活動を充実させていくことが求められている。

さて、本年3月28日に新しい学習指導要領等が公示され、6月13日には平成21年度からの移行措置についての省令及び告示が公示された。それによると、修学旅行に係る新しい記述として次の点が挙げられる。

### (1) 学校行事の目標の明記

「学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。」

### (2) 指導計画の作成における各教科等との関連の明記

「各教科、道徳及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図るとともに、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫すること。」

### (3) 指導計画の作成における道徳の時間との関連の明記

「第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、特別活動の特質に応じて適切な指導をすること。」

### (4) 内容の取扱いにおける事後活動充実の明記

「体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動を充実するよう工夫すること。」

### (5) 特別活動においては平成21年度から新しい学習指導要領の規定を先行実施（移行措置）

「平成21年度から平成23年度までの第1学年から第3学年までの特別活動の指導に当たっては、現行中学校学習指導要領第4章の規定にかかわらず、新中学校学習指導要領第5章の規定によるものとする。」

これらのことから新しい学習指導要領では、学校行事（修学旅行）の目標をしっかりと持たせること、各教科等との関連を図った指導を実践すること、新学習指導要領の規定を平成21年度から反映させることなどが重視されているのが分かる。そして重要なのは、改訂された趣旨を読み取ることである。書き加えられた点については特別活動で重視しなければならない点、あるいは取組が弱かったのでもしっかりと取り組んで欲しい点ととらえることができ、各学校ではこれらの点を重視するとともに、改善していく必要がある。

このような中、関東地区公立中学校修学旅行委員会（関修委）では修学旅行充実のために、昨年度は、上記(4)に係る修学旅行の事前学習・事後学習の状況についての研究を行い、提言としてまとめた。

今年度は、昨年度の内容を更に掘り下げ、上記(2)(3)に係る各学校における具体的な各教科等との関連についてのアンケート調査を実施し、関東地区5県の状況をまとめ、資料として提供するとともに、各学校の修学旅行が更に充実することをねらいとして研究を行ってきた。

## 調査の概要

### 1. 調査対象

茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県 of 公立中学校

### 2. 調査の時期

平成20年6月～7月

### 3. 調査の内容

- (1) 実施の日数・時期・旅行方面・宿泊地・体験活動を含めた生徒一人当たりの旅行費用(平均額)
- (2) 修学旅行での体験学習の実施状況
- (3) 関西方面連合体の大阪以西の利用について
- (4) 修学旅行の実施旅行会社の選定について
- (5) 修学旅行と教科等の関わりについて
- (6) 修学旅行全般についてお気づきの点

## 回答状況

	(校・%)					
	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	合計
校長	6	12	1	152	78	249
教頭	41	3	28	50	60	182
学年主任	144	144	55	177	213	733
旅行担当	10	4	6	42	27	89
未記入	1	2	2	3	4	12
計	202	165	92	424	382	1,265
回答率	86.7	100.0	52.3	100.0	99.7	91.6
有効回答数	201	165	92	423	381	1,262

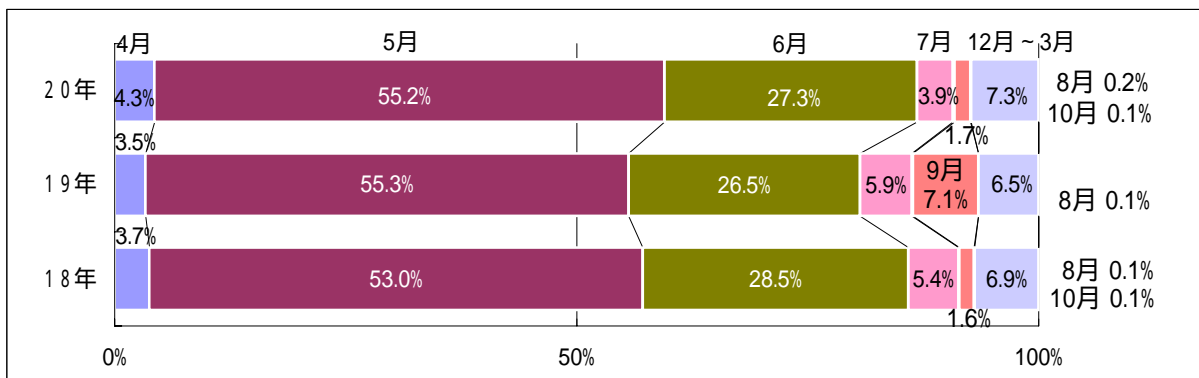
- (1) 回答校のうち、群馬県には国立附属中・県立中各1校、千葉県には市立養護学校1校を含む。
- (2) 栃木県では複数校合同実施があり、3校合同は1校として学校数に計上。
- (3) 有効回答数は、茨城県・埼玉県・千葉県で実施無し各1校を除く。

## 実施の状況(有効回答数データによる)

### 1. 実施日数

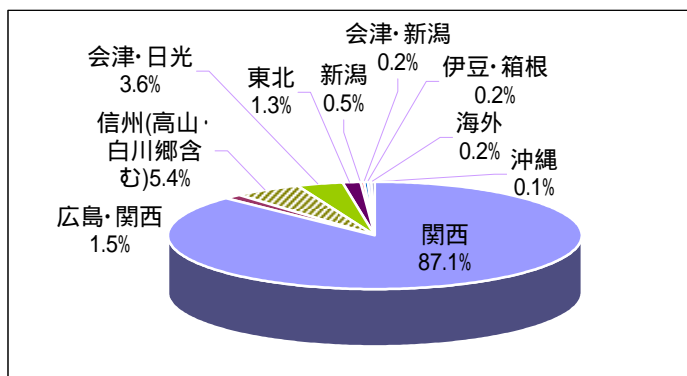
- ・2泊3日での実施がほとんどで99.4%を占める。
- ・1泊2日での実施が群馬県で1校・千葉県で3校、3泊4日が栃木県で1校ある。
- ・群馬県で7日～8日間の長期海外研修旅行が2校ある。

### 2. 実施の時期



- ・5月実施が55.2%と最も多く、6月の実施と合わせると82.5%となる。4月～6月の春に86.8%の学校が集中している。この傾向は例年と変わらない。
- ・9月～10月実施は埼玉県で15校、茨城県4校、栃木県3校、千葉県1校である。例年と変化はない。
- ・12月以降の実施は、埼玉県が79校、千葉県7校、茨城県4校、群馬県2校で2月の実施が多く、第2学年での実施である。

### 3. 実施方面

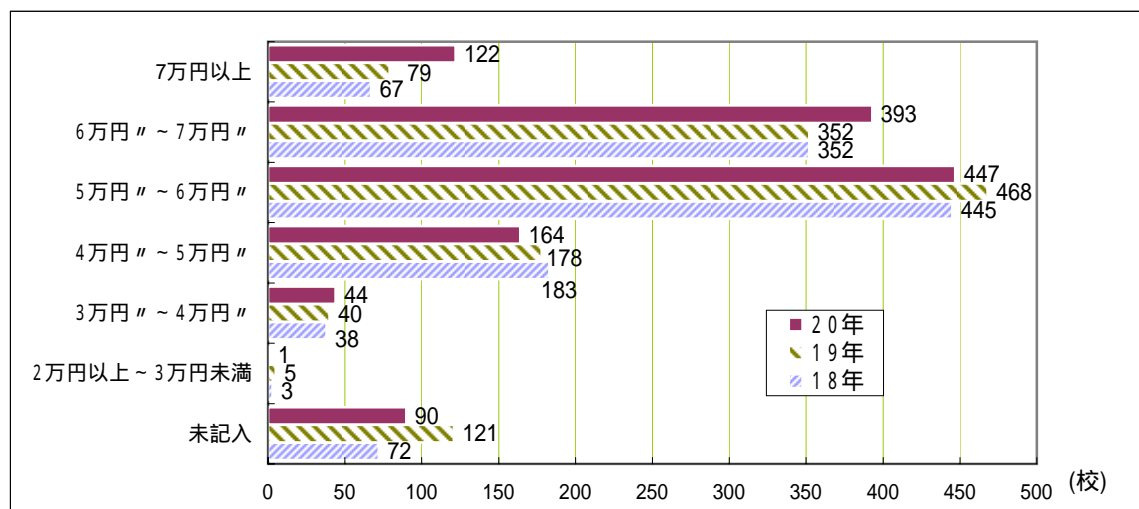


- ・関西方面が87.1%(1,099校)と圧倒的に多い。
- ・信州、会津日光、新潟、信州は千葉県での実施方面で、各方面とも微減となり、関西への志向が見られる。
- ・海外は群馬県のニュージーランド、オーストラリアで各1校ある。沖繩は栃木県1校。

### 4. 宿泊地

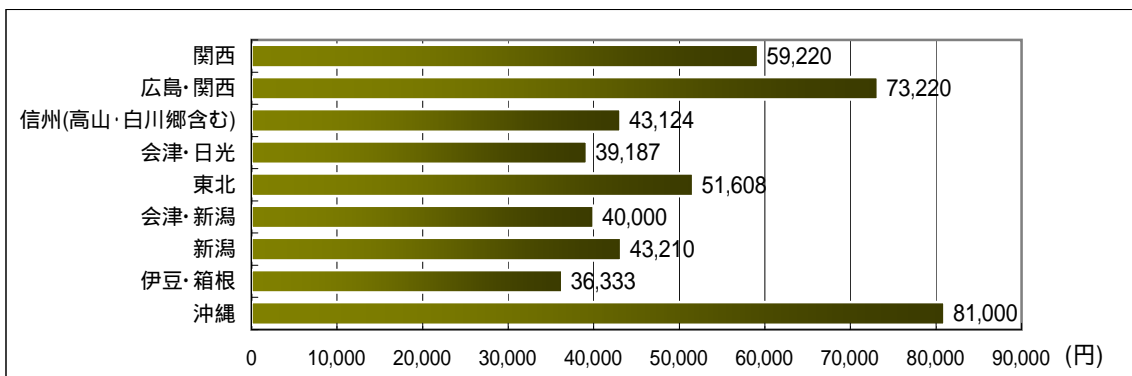
青森県	大鰐町(大鰐温泉)
岩手県	八幡平市(安比高原)、雫石市、花巻市(花巻温泉・ファームステイ)、一関市(蔵美溪)、遠野市、久慈市、釜石市
山形県	天童市(天童温泉)、高畠町、山形市(蔵王)、南陽市(赤湯温泉)、寒河江市
福島県	北塩原村(裏磐梯高原)、会津若松市(東山温泉)、猪苗代町、南会津町(会津高原)、天栄村、白河市
栃木県	日光市(奥日光・日光湯元)
神奈川県	箱根町(箱根)
山梨県	富士河口湖町(西湖)
長野県	諏訪・八ヶ岳エリア 諏訪市(上諏訪、諏訪湖)、茅野市(白樺湖、車山高原、蓼科高原)、原村
	松本・上高地・乗鞍エリア 松本市(上高地・乗鞍高原・美ヶ原)、安曇野市(穂高)
	白馬・大町エリア 白馬村、大町市
	北信濃エリア 長野市(鬼無里・飯綱高原)、飯山市、信濃町(黒姫高原)
新潟県	木曽路・伊奈路エリア 飯田市、阿智村(昼神温泉)
新潟県	妙高市、津南町、十日町市、阿賀町(ホテル・民泊)
静岡県	南伊豆町(妻良)
岐阜県	高山市、白川村(白川郷)
愛知県	名古屋市
滋賀県	大津市、草津市、守山市
京都府	京都市、宇治市、美山町、精華町
大阪府	大阪市
兵庫県	神戸市、南あわじ市(福良)
奈良県	奈良市、吉野町
広島県	広島市
沖縄県	名護市、那覇市

### 5. 旅行費用(生徒一人当たり平均額・体験活動費を含む)

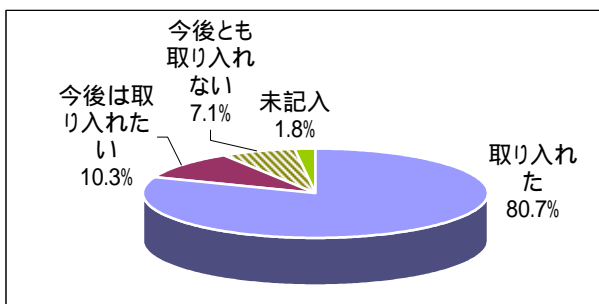


- ・旅行方面、体験活動、班別活動などの条件により、差がある。
- ・4～5万円未満が毎年減少し、6万円以上が増加している。

5 - 1 . 旅行費用の方面別平均費用



6 . 修学旅行での体験学習



・取り入れた(1,019校)

・取り入れたい(130校)

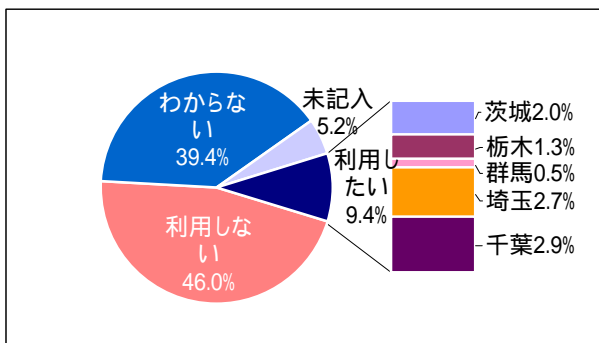
・今後とも取り入れない(90校)

\*体験学習を取り入れる学校はここ数年80%強の学校数で定着している。

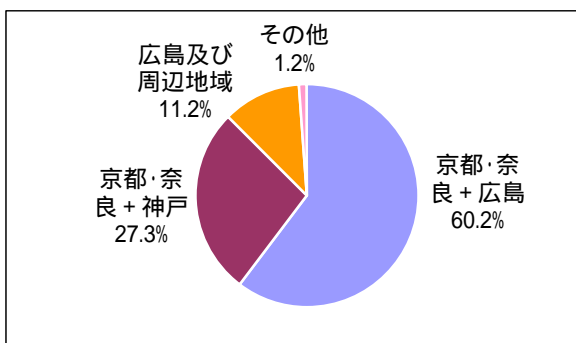
関心の高さは数字からも理解できる。

関西方面連合体の大阪以西の利用

1 . 大阪以西の利用可能となった場合、貴校は



2 . 旅行地として想定される(したい)パターンは



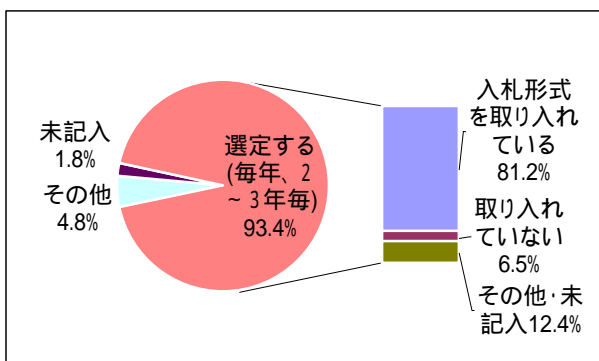
問1「わからない」「未記入」で旅行パターン回答を含む。

・9.4%(119校)の学校が、大阪以西の連合体利用が可能となった場合、利用したいと考えている。

県別に見ると、千葉県37校、埼玉県34校、茨城県25校、栃木県17校、群馬県6校であった。

・想定される(したい)旅行地として、京都・奈良に広島を加えた旅行パターンが60%と最も多く、広島での平和学習を想定しているものと考えられる。

修学旅行実施旅行会の選定



・「毎年選定する」79.4%、「2~3年毎に選定」14.0%で、93.4%が選定を行っている。選定を行うに当たり、81.2%が入札形式をとっている。

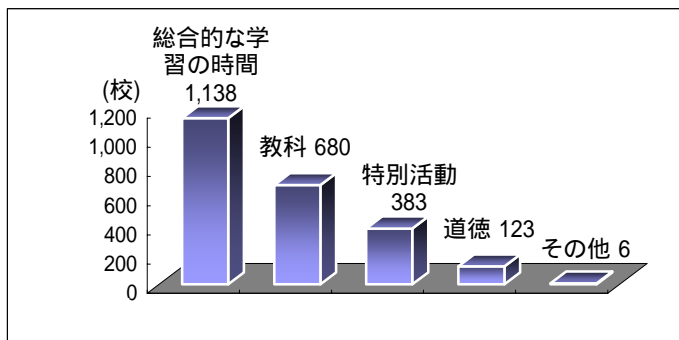
選定時に留意するその他内容

- ・添乗員の資質(人柄・対応能力・信頼)
- ・プレゼンテーション、アンケート
- ・きめ細かなサービス
- ・添乗員の数、事前学習資料等の用意
- ・資料の量
- ・電車(私鉄)の確保
- ・体験学習受け入れ先との交渉、班別体験学習の企画
- ・計画段階での企業からの派遣
- ・本校の教育活動を理解した上で支援できるかどうか
- ・固定
- ・地元業者
- ・数年変えていない
- ・前年度からの引継ぎ
- ・総合的に判断
- ・タクシー会社

## 修学旅行と教科等との関わりについて

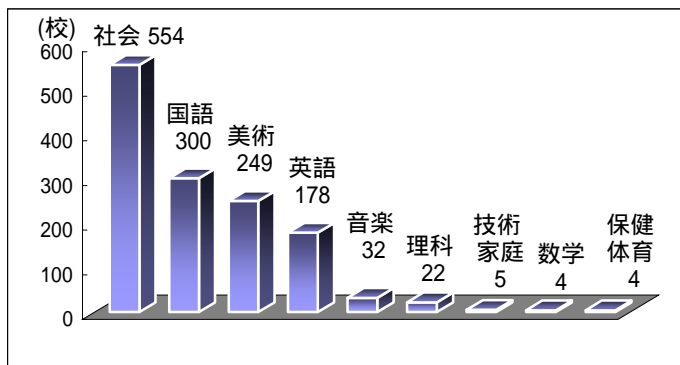
### 1. 関わりをもたせたもの (複数回答)

領域	校数
総合的な学習の時間	1,138
教科	680
特別活動	383
道徳	123
その他	6
合計	2,330



### 1 - 1. 関わりをもたせた教科 (複数回答)

教科名	校数
社会	554
国語	300
美術	249
英語	178
音楽	32
理科	22
技術家庭	5
数学	4
保健体育	4
合計	1,348



### 2. 総合的な学習の時間以外で、具体的にどのような取り組みをしたか

主な内容は、学校の回答に基づき記載した。

教科名	主な内容	事前学習	事後学習
1. 社会	奈良・平安時代の特色を調べる		
	飛鳥、天平、奈良、平安時代		
	古都を調べる(神社、仏閣の歴史調査)		
	飛鳥、天平文化、平安時代の国風文化の復習より見学地の事前学習		
	平城京、平安京の成り立ち、聖徳太子の政治(法隆寺)		
	仏像の違いなど見学ポイントについてプリント作成		
	東大寺南大門の修復に学ぶ		
	日本の歴史と伝統文化		
	幕末の歴史について		
	歴史調査(幕末、明治維新)		
	伝統工芸、地域文化について		
	伝統的建造物群の保存と街づくり		
	文化遺産、世界遺産について(を知らう)		
	奈良・京都にある世界遺産を調べ、価値を考える		
	研修プラン、マップ作り		
	地形と産業、新幹線のルート地形		
	平泉中尊寺や藤原氏		
	山寺修行体験、文学歴史調べ		
	平和学習		
	奈良・平安の歴史学習、伝統文化学習		
	京都奈良の史跡、寺社と歴史の関係について学ぶ		
	歴史的建造物、歴史上の人物の活躍の場		
	歴史博物館の協力を得て学習		
歴史上の施設(神社仏閣)の見学			
町並み、文化の保存の実態を実際に見てくる			
調べ学習レポート作成、新聞づくり			
日本文化についてのテーマ学習			
歴史探訪をテーマにグループで計画、班別行動実施			
東京～京都間交通路と位置関係オリジナルガイドブック作成			
会津の地形と産業			
明治維新までの会津藩について			
戦争や原爆のビデオ学習			
能、狂言の体験学習			

教科名	主 な 内 容	事前学習	事後学習
2. 国 語	法隆寺夢殿の学習		
	奥の細道の学習		
	万葉集、古今和歌集の学習		
	方言(京言葉)調べ、京言葉で話をしよう		
	万葉集で奈良の歴史に触れる		
	奈良・平安の和歌		
	古典文学に親しむ		
	和歌の鑑賞、文学作品とその舞台		
	紀行文、班新聞づくり		
	古文学習で活用する		
	京都観光スポット新聞づくり		
	「京の一句」俳句づくり、俳句会(ゲストティーチャー)		
	俳句、短歌、川柳の創作、高瀬舟の読解		
	紀行新聞、個人新聞、作文		
	古典文学と京都、奥の細道		
	古典文学の鑑賞		
	短歌、俳句を作り発表会(毛筆)		
	能、狂言について		
	修学旅行を詠もう(俳句、短歌和歌)		
	見学、体験地の文学作品学習		
	原爆詩(平和学習)		
	旅行紀		
	法隆寺を支えた木		
	班新聞、個人新聞づくり		
	後輩に伝えるパンフレット作り		
	パンフレット作り、礼状の書き方		
	狂言の鑑賞、古典芸能との触れ合い		
修学旅行新聞づくり			
修学旅行紀作成			
俳句、日記、作文			
しおり文集作り			

教科名	主 な 内 容	事前学習	事後学習
3. 特別活動	実行委員会を組織し学習行動計画の作成		
	目標作り、班別行動計画の立案		
	見学地の選定や旅行の決まりを話し合い中心の学級活動で		
	集団行動マナーについて		
	巨大立体地図の作成		
	スローガンを話し合う		
	班毎の見学コース作り		
	行動訓練やしおり読み合わせ等		
	クラスやグループでの自治活動		
	組織作り、生活指導、班行動の反省		
	グループ活動計画、話し合い活動		
	体験学習と他者との協力により物事を成し遂げる		
	仲間作り、集団行動について		
	集団生活について		
	円滑な修学旅行をするために		
	学年生徒会により計画立案、評価活動		
	リーダー指導、班活動、話し合い活動		
	組織作り、生活指導、班行動の反省		
	ルールやマナーについて		
	体験学習と他者との協力により物事を成し遂げる		
	集団活動を通し互いのよさの発見		
	交流で進路選択への意識づけ		
	広島平和公園で「平和のセレモニー」実施、帰校后感想発表会		
	クラス発表会全校発表会そして評価活動		
	スクラップブックによるまとめ		
	全校集会・学年集会・報告会		
	クラス発表会全校発表会そして評価活動		
新聞づくり、体験活動報告会			
挨拶文、礼状			
報告書作成、全体指導			
修学旅行後の生活目標づくり			
写真コンテスト、個人新聞づくり			

教科名	主 な 内 容	事前学習	事後学習
4. 美術	壁画や構造美の見学		
	仏教美術、日本の美術(庭園・建築・仏像)		
	仏像から各時代の特徴調べ		
	古都の美術、日本の伝統文化		
	伝統工芸の漆器の加色体験		
	美術史・ギリシャ、ローマと天平		
	建造物、彫刻鑑賞		
	襖絵、天井画学習		
	有名な仏像や美術品を授業で取り上げる		
	世界遺産について		
	慶山焼き、手びねり体験		
	建築物と神社仏閣		
	切り絵によるしおり作成		
	ガラス細工、時計、オルゴール作成		
	箱根美術館の鑑賞法		
	建築物、柱、壁画鑑賞		
	スケッチと絵画制作		
	仏像画制作、鑑賞		
	清水焼の絵付け		
	美術品の鑑賞、宗教と美術		
	建築の特色、仏像の形式の学習		
	京都・奈良の美術や文化		
	日本の美発見		
	文化財世界遺産についてレポートにまとめる		
	伝統美術、仏教美術の鑑賞		
	日本美術の鑑賞、修学旅行ノート(しおり)表紙作成		
	3日間の様子を絵巻方式でまとめる		
	風景画、伝統工芸体験		
	建築物、仏像の写真レポート		
	色紙に仏像を墨書して俳句に載せる		
美術品、国宝の時代背景を学ぶ			
思い出アルバム作成(写真、パンフレット、拝観券を利用して)			
銅版レリーフ作成			
日本の美である仏像彫刻について鑑賞			
思い出の一コマを一枚に描く			
ガラス細工作り、京扇子、水墨画制作			
集めた資料を基に卒業制作			

教科名	主 な 内 容	事前学習	事後学習
5. 英語	英語劇、日本文化紹介(DVD)		
	現地校交流会準備		
	京都で一番好きな所を英語で先生方にインタビュー		
	外国人に京都の印象、体験を尋ね帰校後発表会を実施		
	質問を考え、英作文、手紙指導		
	旅行中に使える一言英会話集を作成(挨拶、コミュニケーションの表現)		
	国際交流の方法指導		
	外国人へのインタビュー		
	外国人とのコミュニケーション		
	体験作文(3日間を英語で)		
	国際交流、国際理解		
	英作文、手紙指導、帰校後英語スピーチ		
	交流の輪を広げよう		
	英会話と報告レポート		
	市の紹介を英語で伝える		
	京都・奈良の思い出を英語で表現		
	旅行報告文作成		
日本の伝統文化の紹介			



教科名	主 な 内 容	事前学習	事後学習
6. 道 徳	公衆道徳、マナー指導		
	TPOに応じた言葉遣い		
	座禅の心得、日本人の自覚		
	文化財保護にかける人々の努力		
	日本の文化について学ぶ		
	マナー、ルール、礼儀作法		
	文化財保護にかける人々の努力		
	先人の業績学習		
	公衆マナー集団生活の意義		
	伝統や文化の継承/発展		
	文化遺跡を守る		
	修学旅行で何を学ぶか、何を身に着けるか		
	公共心、思いやり		
	自覚、文化の継承		
	サダコと折り鶴を取り上げ平和学習、今すべきことは		
	自主、自律、規則尊重		
	木の命、木の心(宮大工、常岡氏のことばより)		
	見学等社会ルールの体験		
	阪神淡路大震災を通して命の大切さ		
	集団生活の向上、役割と責任、公德心		
個性の尊重、人はそれぞれ見方、考え方が異なる			
仲間への思いやり			
集団行動を通し、健康や安全、集団行動、公衆道徳の指導			
旅行まとめ			
心遣いに感謝する心を持つ			
宿泊先への礼状、写真を送る			
郷土愛について(日本人のふるさと京都より)			

教科名	主 な 内 容	事前学習	事後学習
7. 音 楽	能体験		
	現地集会での合唱曲作り		
	能の鑑賞学習、DVDによる視聴		
	合唱交流、合唱曲(お礼の歌)		
	狂言の学習		
	広島で献花のときの合唱練習		
	ヨサコイソーラン、学年歌		
	伝統音楽についての学習		
	見学地、訪問地で合唱披露		
	八ツ橋と音楽のつながり		
	マリンバコンサート実施し、被爆体験を聞く		
鑑賞勸進帳、五条大橋、歌舞伎			

教科名	主 な 内 容	事前学習	事後学習
8. 技 術	伝統技術の粋を結集した建造物へ携わる名工の生き様、思いを紹介		
	インターネットによる情報収集		
	建築物の構造		
	PCで調べ学習、しおり表紙作成		
	雑巾手縫い		
	京都、奈良、大阪なぞなぞ作り		
	行程表や新聞をPCにより作成		
	修学旅行の報告書作成		
	PCでプレゼンテーションソフト活用		
	修学旅行紹介をパワーポイントで発表、報告する		
	京都ナビPC入力、報告書をPCで作成		
	PC利用画像貼付作文集制作		
旅行記プレゼンテーション			
見聞したこと、まとめをパワーポイントで説明			

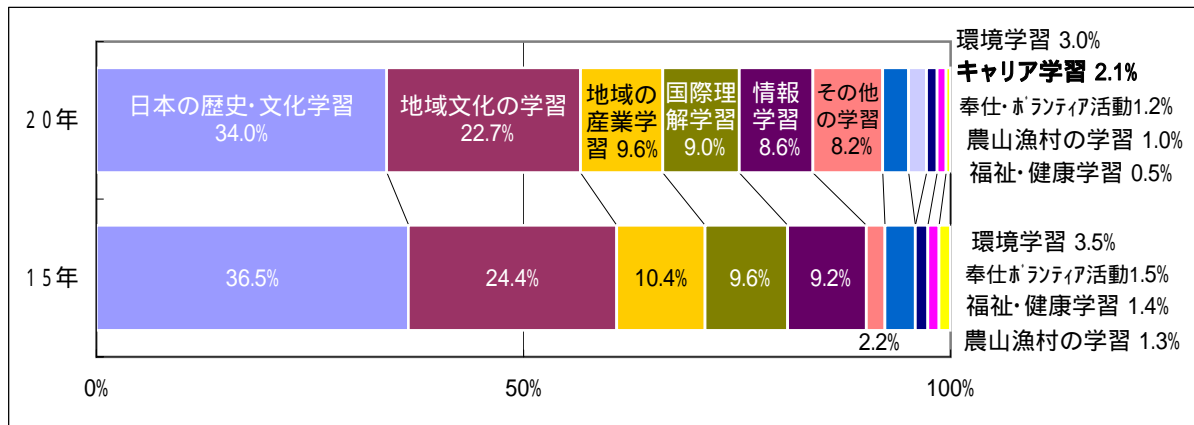
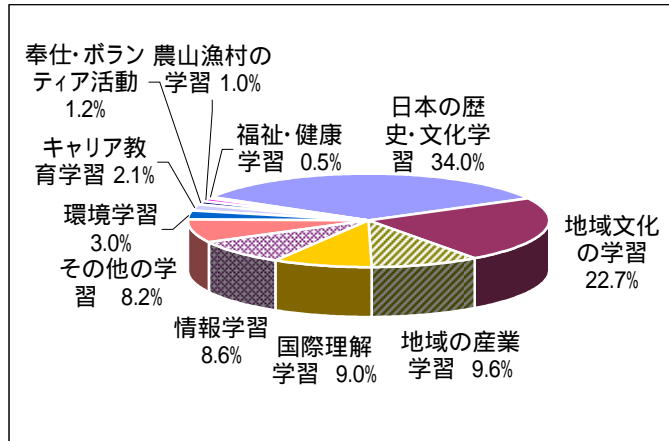
教科名	主 な 内 容	事前学習	事後学習
9. 理 科	京都(関西)と関東の気候の違い、盆地の気候		
	環境学習		
	果樹農家体験		
	防災未来センター見学		
	新幹線の速さ、慣性の法則体感		
	関東、関西の気候、風土の違い、植物と火山		
	信州、上高地自然観察		
	奈良の自然		
会津地方の植物、火山活動			

教科名	主 な 内 容	事前学習	事後学習
10.保健体育	スキー指導、安全指導		
	集団行動、隊形、整列、移動		
	ヨサコイソーラン		
	病気と怪我の予防		

教科名	主 な 内 容	事前学習	事後学習
11.数 学	五重塔の高さ計算		
	美術品の白銀比から比率の計算		

3. 総合的な学習の時間と関わりをもたせた学習内容 (複数回答)

学習内容	校数
日本の歴史・文化学習	909
地域文化の学習	607
地域の産業学習	258
国際理解学習	240
情報学習	230
その他の学習	219
環境学習	81
キャリア教育学習	56
奉仕・ボランティア活動	33
農山漁村の学習	28
福祉・健康学習	14
合計	2,675



・総合的な学習の時間の学習内容を比較してみると現在と5年前では大きな変化は見られない。

ただ、ここ4～5年の間にキャリア教育の視点に立った学習がクローズアップされるようになった。

## アンケート調査の結果から

### 1 関わりをもたせたものについて

- ・「総合的な学習の時間」と答えた学校 1,138 校で最も多く、前年度の調査結果と同様、ほとんどの学校で「総合的な学習の時間」との関連を図っていることが分かる。
- ・「教科」と答えた学校は 680 校で二番目に多く、前年度調査結果よりも増えている。各学校が教科等との関連を重視してきていることがうかがえる。
- ・「特別活動」は 383 校、特別活動の総時間数が多くなってしまったためか、余り関連が図られていないようだ。学級活動や生徒会活動との関連をもたせることが特別活動の目標の達成につながると思われる。
- ・「道徳」は 123 校で「その他」を除いた回答の中では一番少なかった。新学習指導要領にもふれられているように、修学旅行での体験を道徳の時間の主題と関連づけて指導することを充実させたい。

### 1-2 関わりをもたせた教科について

- ・「社会」と答えた学校が一番多かったのは、その土地の文化や歴史に関連づけ、授業で取り上げたものと推測できる。
- ・「国語」と答えた学校が二番目に多かったのは、紀行文や俳句・短歌など、体験活動を通して気づいた事などを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動の充実を図ったことが推測できる。
- ・「美術」と答えた学校も多かった。神社や仏閣、仏像などを建築、あるいは美術品ととらえ、数少ない鑑賞の機会として活用した学校が多かったようだ。
- ・「英語」については、外国人観光客の多い観光地の特色を生かし、生きた英語を活用する機会ととらえたようだ。
- ・数は少ないが「音楽」「理科」「数学」「保健・体育」「技術・家庭」と答えた学校があった。詳しくは各学校の取組の内容が掲載してあるので、是非活用してもらいたい。

### 2 総合的な学習の時間以外での具体的な取組について

- ・教科との関連について、具体的な例を 2 つに絞って列挙していただいた。今後の各学校の取組に生かせるものが数多く挙げられているので、是非活用してもらいたい。

### 3 総合的な学習の時間との関わりをもたせた学習内容について

- ・総合的な学習の時間において、社会科で学習した内容や特別活動で体験した内容について、更に深く学習したり、探究したりすることが行われていることが推察できる。つまり、総合的な学習の時間、特別活動、教科等との関連が図られているという学校が多いということである。
- ・下位ではあるがキャリア教育学習と答えた学校がかなり増えている。各学校でキャリア教育という視点に立った教育活動が広がってきていると解釈できる。
- ・なお、この調査は平成 15 年度もほぼ同じ内容で実施した項目であるが、上位項目の順位や割合に大きな変化は見られなかった。

## まとめと今後の課題

修学旅行と教科等とのかかわりについてはほとんどの学校で配慮されており、今後も更に関連性を重視してほしい。

関わりをもたせているのは総合的な学習の時間が多いが、総合的な学習の時間と比べると教科や特別活動、道徳との関連については少ない状況である。今後は、教科や特別活動、道徳との関連を更に図っていく必要がある。

修学旅行を教科と関連づけている教科は、社会や国語の学習が多いようだ。教科と修学旅行の目標との関連を図って活動を充実させてほしい。なお、関連づける内容としては多種多様であるので、各学校や地域の実態に応じ無理のない指導計画により、改善していくことが望まれる。

修学旅行と総合的な学習の時間との関連性は十分図られているので、今後は更に各教科で得た知識を総合的な学習の時間で活用したり、総合的な学習の時間で学んだことを各教科で生かしたりするなどして、修学旅行を通して、生徒たちの学びの充実を図ってほしい。

### < 提 言 >

今年度は学習指導要領の改訂と時を同じくして、学校行事に沿った内容のアンケート調査を行った。結果、特別活動の学校行事〔旅行・集団宿泊的行事〕に係る改訂内容と今回のアンケート調査が合致していることが分かった。

また、新しい学習指導要領の理念は平成 21 年度早々に指導計画に生かすために、各学校が今すぐ来年度の改善計画を作成する必要がある。その抛り所となるよう、今回の学習指導要領の改訂、及びアンケート調査結果から、関東地区公立中学校修学旅行委員会として、更なる修学旅行の充実を目指し次の提言をする。

- ・ 修学旅行の目標や生徒に身に付けさせたい資質や能力を明確にする。
- ・ ねらいに沿った活動を展開し、評価を的確に実施する。
- ・ 修学旅行と各教科等との関連を、より一層推進する。
- ・ 充実した感動のある修学旅行の実現を図り、修学旅行を通じた体験を学びに結びつける。

## 修学旅行全般について、お気づきの点

平成20年度実施状況等調査から<重複内容は除く>

### 輸送等

- ・ 関係委で安く実施でき有難いが、一方的に時期が決定されるのもう少し柔軟に。
- ・ 日程が学校の自由にならないのが一番のネックだが、仕方ない。
- ・ 連合体利用には時期と出発時間にかなり制限がある。
- ・ GW明けは指導・準備がしづらく検討を。
- ・ 実施時期・新幹線の時間を自由に選択できると良い。
- ・ 連合体利用は経費の軽減に魅力を感じるが日程の制約を受けるため見合わせてしまう。JRは中学校団体には乗車券同様、新幹線特急料金にも割引を適用してもらいたい。
- ・ 修学旅行の都合で春季大会が早まった地区があった。県・地区レベルで調整を。
- ・ 7月実施は水分補給、食事等の面で注意が必要。サッカー・陸上等大会日程と重なることがあった。宿泊施設と本校生徒数の関係。
- ・ 出発前日が休・祝日は避けたい。
- ・ ここ数年7月実施が多い、少しずらして欲しい。
- ・ 実施日が割り振られるので学校の希望通りにならない。(本校は6月で助かっているが)
- ・ 部活動の大会にあたらぬ工夫をお願いしたい。
- ・ 6月実施はある程度指導の余裕があったので良かった。7月実施は、部活動の調整機関と重なり難しさを生じるため避けたい。
- ・ 年間の学校行事を決めるに当り、日程の希望が反映されない(仕方ないのかもしれない)のが不都合。
- ・ 連合体割り当てが土日の場合、他団体での公式日程、土日の体験学習場所の確保等苦労した。
- ・ 日程・旅程等を学校の都合で選べる冬の実施が、個人的には良いと思う。
- ・ 少人数校でも連合を組まず単独で企画できるよう業者に働きかけを。
- ・ 一般車両利用は避けたい。
- ・ 新幹線同一車両に2校がはいる機械的な振り分けは問題。
- ・ 新幹線車両の喫煙のにおいが気になった。15・16号車の利用で管理上良かった。
- ・ ダイヤ改正により新幹線が上野乗換えとなり不便。
- ・ JRの座席割りは各校にトイレが割り当てられるよう設定して欲しい。複数校の共有は指導面で難しさがある。
- ・ 水戸・上野間、日立・上野間の時間短縮を。
- ・ 東京駅まで時間がかかる。始発での出発、帰日も遅いのはきつい。
- ・ 昨年度より費用が値上げされた。同一市内の学校が重ならない日程にして欲しい。
- ・ 帰路新幹線も200名以上は同一列車での乗車を。
- ・ 往復とも待ち時間が少なく、スムーズに移動できた。
- ・ 新幹線車中は他校間とのスペースが十分取られておりトラブル防止に役立った。
- ・ 新幹線の一般乗客との混乗には大変気を配り、少々苦言をいただいた。
- ・ 新幹線の一般乗客との混乗は生徒も職員もストレスがたまる一方である。専用列車にならないか。
- ・ 新幹線の隣接する学校を事前におきたい。班別行動でも団体料金が利用できると便利。
- ・ 新幹線乗降駅は希望すれば新横浜でも可能か。
- ・ 東京駅での新幹線乗車までの待ち時間が長い。
- ・ Cコースの車両は専用とし一般客と同席にならないようにしたい。
- ・ Cコース時間帯の改善を。東京駅・京都駅での待ち時間が長いのを改善したい。
- ・ 定期混乗のため車内での活動が制限されたクラスがあった。
- ・ 特急料金50%割引は有難い。早く計画でき、よい宿舎を選択することが可能になり大変良い。
- ・ JRの割引率50%は低すぎる。
- ・ 1日目、神戸防災センターと淡路島・活断層見学を実施。生徒・職員とも満足した。(京都・奈良は従来通り見学)
- ・ 京都連泊が不可となる業者が多いのは何故か。
- ・ ホテル・旅館の選定を公平にして欲しい。食事メニューに工夫を。
- ・ 業者の担当者によってサービスや企画に差が大きい。
- ・ 宿泊・旅行社の取扱い料金等費用が高い。
- ・ ビジネスホテルの利用で、シングルにエキストラベッド利用の2人部屋があり、利用した生徒から不満が出ていた。

- ・今年度、能体験はなかなかできない体験でとても良かった。
- ・体験を主体とした修学旅行のプランを知りたい。
- ・京都等での体験学習が種類ともとても充実してきて大変良い。同じ中学生との交流体験プログラムがあると良い。
- ・京都での雅楽等の見学体験料金が高すぎる。
- ・大阪を修学旅行地に取り入れたかったが、予算オーバーのため断念。大阪商人体験等良いと思うが、関東からは予算的に厳しい。
- ・今年度体験学習を取り入れ、グループ毎の取組みは短時間の中で貴重な取組みができ、生徒にとっても達成感のある旅行であった
- ・修学旅行生の多い5・6月体験学習の受け入れ先が少なく、受け入れ態勢を考慮して欲しい。
- ・体験学習・班別活動を取り入れ、生徒主体の有意義な修学旅行になっている。
- ・体験活動をより深める手だてを探っている。
- ・旅行の行事は教科学習と違って体験的学習が出来るので貴重なもの。今後も大切にしていきたい。
- ・班別活動をメインとし体験学習を取り入れたが、体験内容・費用・時間について今後課題が残った。
- ・体験学習をボランティアで受け入れてくれる所がほしい。体験費用は高い、3千～5千円の負担は大きい。
- ・京都の歴史だけでなく、産業や地域の生活の中に入った体験活動ができるとよい。
- ・4年前から関西に変更し、事前学習等多様な学習が展開できる。日本の文化、地域の人たちとのふれ合いを通して貴重な体験をすることができている。
- ・体験学習が充実しており貴重な経験の場となっている。
- ・今年度、体験学習を大阪で取り入れたが、日曜日のため受け入れ先が少なく苦労した。
- ・農業体験を中心に実施、今後の生きる力が育っていくと確信する。
- ・スポーツ体験は種類・内容とも充実してきたが、地元の人たちとのふれ合いを通しての活動は今一步と感じる。
- ・農業体験は非常に有意義であった。バスでの移動は日程が自由に組み、クラス単位であり親睦を深めることに役立った。
- ・事前・事後指導も含めて考え計画・実施しており、本校としては充実した取組みとなっている。
- ・シルバーガイドの活用により班別活動など大変役にたった。さらに人員増など活用しやすい環境整備を。
- ・班別学習時にシルバーガイドの同行をお願いしたが大変好評であった。
- ・京都シルバーガイドの料金がもう少し安いと利用しやすい。
- ・シルバーガイド(生徒1人1,569円)は好評
- ・小規模校のためジャンボタクシーでの移動、川床料理、北山杉に囲まれた新緑など素晴らしいことばかりだった。
- ・スカイガイドは人との交流もあり生徒に好評であった。
- ・タクシー見学は運転手との交流や見学も充実し、生徒たちは満足していた。
- ・4月に旅館の宿泊料金や弁当代の値上げがあり追加集金を行った。班別研修のタクシー利用は生徒に好評であった。
- ・京都市内宿泊が難しくなっているため3日間の企画がたてづらい。
- ・年々費用が値上がりしている。専用電車を利用すると、大会日程が重なった場合キャンセルできないので、県大会出場の子生はJR新幹線代金を別に支払うという理不尽。
- ・経費をできるだけ抑える方策があれば教えて欲しい。
- ・旅行社の取扱料(11%)は高すぎる。宿泊費も団体利用にしては高い。
- ・費用が全体的に上がってきていると感じる。3年次で予定を組むのが困難になってきていると感じる。
- ・2泊3日の旅行としては高額、実際に費用が支払えず不参加となった生徒がいる。
- ・今後経済的・学校行事等の面で冬季の計画も考慮する。
- ・交通費の値上げに伴い生徒一人の旅費額が大きいため、今後コースを大幅に変更しなければならない状況がでてくる。
- ・交通費がもう少し安価になるとよい。旅館・ホテルの質の向上。
- ・保護者負担が多すぎる。旅行会社の取扱い料金が高く改善できないか。
- ・費用が高額となり、各家庭からの毎月の集金や個々の積み立て金額に神経をつかわなければならず、少し負担に感じる。
- ・一般の旅行に比べ、食事・宿泊施設を考えると費用が高すぎるのでは。
- ・旅行費用(鉄道・バス等交通機関、宿泊施設等)について保護者負担が大きき、さらに特別に低価格の設定ができないか、諸施策の整備充実を要望。
- ・保護者の負担軽減を図りたい。障害をもった生徒に対応した宿泊地が少なく選択幅が狭まる。
- ・入札でなるべく費用を抑えようとしているが、コストがかかりすぎる。一般旅行と比べ、家庭の理解を得られなかったり、未納につながっているのではないか。
- ・宿舎が毎年変わるため、下見が必要となっている。希望の宿舎を変更しないで済むようにしたい。
- ・班行動(6～7名)も団体扱いして欲しい。
- ・宿泊施設が希望に合うところを見つけるのが難しい。
- ・世界遺産に指定されている地を今後学習地として活用していきたいと考える。
- ・担当学年の修学旅行に対する目的の持ち方によって日程・行動が変わる。年度ごとの継続性を持たせるのであれば、学校として修学旅行の目的をどうあるべきかをしっかりと検討する必要がある。
- ・学年独自の企画で毎年変わるのではなく、学校として数年先を見通したスタンスで、下見等準備の軽減を図る必要がある。
- ・5月下旬実施で年度当初忙しかったが、職員・生徒ともよく動いてくれた。
- ・今回の日程・コースはよく組まれておりとてもよい修学旅行であった。
- ・班別行動時の生徒の意識高揚とチェック体制。
- ・修学旅行の教育的意義をあらためて感じた。
- ・「エコ」を意識した取組みを行いたい。
- ・奈良・京都は生徒の学習意欲を向上させる上で効果がある。
- ・大規模校の宿舎確保は限定されてしまうという課題がある。
- ・新幹線の座席にゆとりがあると、具合が悪くなった生徒や生徒指導の対応が出来るのでプラスアルファの座席を確保願いたい。6月下旬～7月実施が連続しないよう配慮を願う。

企画・実施等

- ・ 教員の負担が大きくなっている。(家庭教育力とモラルの低下)
- ・ 日本の文化である京都・奈良の歴史を直に感じられることは生徒にとって意義深い。
- ・ 今回天気にめぐまれ良かった。新幹線の時間も良い。
- ・ 7月実施が2年連続した。小規模校から学期末に入れられたとの思いが強い。新幹線車両の割り当ては、帰路バス利用校は乗り場近くに設定して移動に配慮を。
- ・ 奈良をどう取り入れるか工夫が必要。
- ・ 有意義な時間を皆と過ごせるよう、これからも努力していきたい。
- ・ 奈良・京都の見学地で改修工事が多かった。
- ・ 中学3年生は反抗期を抜けて社会に次第に目を向ける時期にあたり、現実をひとつでも多く触れる必要がある。荷が重いかもしれないが本校では、戦争や平和について自分で課題をみつけ、自分で調べて伝える修学旅行にするために総合的な学習の時間をフィールドワークとして設定した。
- ・ 生徒数増加により宿泊施設の選定が難しい。
- ・ 宿泊地が京都から離れていたため見学時間にロスが生じたがホテルは大変快適であった。早い出発時間であったが、京都着後の行動が有効に進んだ。
- ・ 奈良に宿泊することで見学時間が多く取れ、奈良で有意義な時間が確保できた。
- ・ 安全面に留意したゆとりある日程、日本の歴史・文化の学習につながる企画、快適な宿舎であった。
- ・ 修学旅行の時期が集中しすぎ、緩和できないか。
- ・ 修学旅行前夜、京都で通り魔事件があり心配。治安の確保が一番の課題であった。
- ・ 清水寺等混雑する場所での安全確保。
- ・ 奈良に1泊したおかげで、多くの見学地を見学することができ有意義であった。
- ・ 5月の休日に当たり見学先・バスが込み合い、予定通りに進められなかった。
- ・ 旅行会社無しで実施している学校の有無。宿泊施設として、独立行政法人 青年の家等の利用は可能か、また実施している学校の活動内容は。
- ・ 修学旅行シーズン、見学場所がかなり混雑する。解消する手段はないのかと思う。
- ・ 銀閣寺の修復工事により予定通り見学できなかった、事前に周知して欲しい。
- ・ 2年生の1月から計画や班作りを始めたが、4月の異動により3年のスタッフが変わり情報を共有するのに苦労した。
- ・ バスガイドの態度面に問題あり、お客に対する態度ではないほどひどく驚いた。
- ・ 修学旅行は本当に必要か。積み立てや集金に職員が多大な時間が費やされる。また、体験学習を取り入れるにしても体験先の開発等勤務外の時間が多すぎて負担である。
- ・ 修学旅行の意義について再考を促す時期に来ているのでは。個別の要求が多くなる中で、教員が多数の生徒を引率し宿泊を含む研修を一律に課すことは無理があると思われる。
- ・ 専用列車は生徒も掌握し易く大変便利。目的地までの所要時間が短縮されるとなおすばらしい。
- ・ 授業時数を確保しなくてはならない中、事前・事後学習の準備・まとめの時間配分が気になる。
- ・ タクシー利用による班別行動は学習面・安全面で有効であった。反面、費用が多かった。
- ・ 班・グループ行動の形態はどのようなものがあるか。本校は1日目・生活班、2日目テーマ別グループ・3日目クラス別…。他に効果的ら方法があればアドバイスを。
- ・ 日程が1年次に決定する理由は理解できるが、学年スタッフが不動といかないのが残念。選定理由を次の学年にわかりやすく引継ぎできればと思う。
- ・ 時期により混雑するため、十分な検証活動ができなかったり、なかなか難しい。
- ・ 新幹線座席決定後の照会について、情報提供されるよう交渉していただきたい。
- ・ 家族との旅行が増えているとはいえ、まだ中学生にとって同年代と寝起きすることはとてもよい思い出となり継続して欲しい。
- ・ 授業・他分野との関連の強化が必要。総合学習で取り組む際の年間計画の位置付けと他の学習内容との関連付けが重要。
- ・ 事故等による器物破損やケガ等に対応するための契約内容について旅行業者と事前に確認が大事。
- ・ 安全面の配慮。列車の乗り換え時間が短い、本校では乗下車の練習をした。
- ・ 中学校の旅行先を考慮して高校側が重複しないよう行き先を設定している。小中高の連携・情報交換が必要。
- ・ 修学旅行の意義・目的が変化中、従前の内容にとらわれすぎているのでは。
- ・ 情報化が進む今の現代に、自分の足で歩き、目で見ると学習の意義は大きい。また人間関係づくりからも貴重な活動である。
- ・ 生徒数が多く、安全面への配慮を特に重視している。
- ・ 少人数化に伴い業者選定面で苦慮している。
- ・ 以前チャーターできたジャンボTaxiがとれずに困った。しおり作成上、座席割を早めに。
- ・ 関西以西利用は今後検討したい。